

# HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を 指標とした癌治療班

研究班代表

福島県立医科大学医学部 外科学第2 竹之下 誠一

東海大学医学部 消化器外科 生越 喬二

昨年度に報告したように、HLA 抗原を利用して治療前に最適治療法の予測が可能であることが判明してきました。15年以上に渡り症例蓄積に協力して頂いた班員並びに班員施設の先生方、協力して頂いた患者様の皆々様に御礼を申し上げます。本年度は、その仮説を証明するための研究を続行していきたいと考えております。以前から申し上げていますように、われわれの発想は非常に簡単ではありますが、簡単単純であるが故に理解されなかったのではないかと反省をしております。さらにこの種の研究を続行するには、人並みならぬ忍耐と想像を絶する時間と研究資金が必要であり、本来であれば、国の機関の協力が必要ですが、残念ながら一度も国からの協力は頂けず今日に至りました。現在、25年にわたる成果を投稿する準備をしております。

## 平成20 (2008) 年度研究計画

下記仮説を証明する。

『最適治療法を受けた患者は長期生存している。その患者の遺伝子情報（われわれの場合は HLA phenotype 遺伝子情報）を解析する。似たような遺伝子情報をもっている新しい患者群に同様な治療を最適治療法として行えばその新しい患者の予後も良好である。』—— ‘Pair match method’

医師は仲人役を担う。まったく同じ遺伝子情報を持つ人間は、双生児以外には世界に存在しない。似たような遺伝子情報を解析するには、polymorphism の代表である HLA 抗原は最適である。また日本人は homozygote であり適している。

### 1. 対象

胃癌、大腸癌、食道癌、肺癌

### 2. 治療法

①切除術

②切除 + F 剤

③切除 + F 剤 + PSK

### 3. 最終評価 (術後 2-5 年)

生存、死亡

### 4. 参加法 (具体的なことは事務局に問い合わせして下さい)

①術前に患者に IC を行い、術前に採血し、検体を検査会社に送り、HLA 抗原を測定する。術前の臨床データと採血日を検体送付と同時に事務局に送付する。

②事務局から candidate の最適治療法を送付。その結果、再度患者の IC を取り、それに基づいて治療を開始する。治療法開始後速やかに、治療法、治療法開始日、病理結果を事務局に送付する。毎年の研究会開催前に、予後調査を実施する。